



“政治災害”に反撃

市民アンケートにご協力ください

全国各地で派遣や期間工など非正規労働者の大量解雇が次々と報道されています。本市の磯原・中郷の両工業団地では、年明け早々、派遣社員の解雇が噂されるなど深刻な事態が懸念されています。福田明市議のもとは、「定年まで2年残しているのに解雇された」「1月中にも派遣は、いつせいに解雇される」「今後どうしたらいいのかわからない。力になってほしい」などの相談が相次いでいます。

日本共産党市議団が昨年未から実施しているアンケート調査でも、「主人はうつ病になり通院中です。貯金の取崩しでやっと生活しています」「景気が悪く残業代もなくなり給料も減少。暮らしていけない」「年金は少なく、負担は多い。本当年金者泣かせです」「諸物価の値上げと諸税が高い。特に国民健康保険料が高過ぎる」と切実な声が数多く寄せられているのが特徴です。

日本共産党市議団は、1月1日、宣伝カーで市内を一巡し、街頭から「雇用不安、経営危機が進行しています。いま政治が役割をはたさなければなりません。国民の反撃も始まっています。日本共産党はその先頭に立ち、国政でも市政でも“国民が主人公”をつらぬいてがんばります」と訴えました。



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462



「緊急雇用相談窓口」市役所開設

急激な雇用情勢の悪化を受けて、北茨城市では、新年の1月8日から、緊急雇用相談窓口を設置しました。解雇などによって離職を余儀なくされた非正規労働者（派遣労働者・期間従業員など）の方々を対象としたものです。

「雇用その他で困る事があれば、ぜひご相談ください」とのこと。市役所1階市民課窓口へ直接行くか、また

は電話(43)1111まで。お問合せ先は、市民課の広報広聴係です。

このほか、市役所庁舎内では月一回、いばらき就職支援センターの出張相談も実施されています。毎月第3火曜日、10時～15時(昼休み1時間を除く)です。この年末には、それまで月に数人だった利用者が、一気に増えて30～40人からの相談があったとのこと。

さらに現在、市役所内部では、臨時雇用の枠をつくることも検討しているところ。



「派遣村」支援

1月2日の夜明け前、上り普通列車で東京の「派遣村」に向かう中郷町のMさん。支援物資を詰めた大きなリュックには「貧困は政害だ」と怒る手作りプレートも。



(磯原駅西、1月4日)